

夏越し対策



綾歌普及センター
井口里香

日差しも強まり、暑い夏がやってきました。この季節大切な草花を葉焼け、乾燥、雑草から守るための対策が必要です。

今月は夏を乗り切るお話です。

夏は容赦なく照りつける太陽で人間も植物にとってもこの時期を快適に過ごすには何か対策が必要です。

●日除け対策

暑さに弱い鉢物は木陰に移動させるか、ヨシズ、寒冷紗などで覆いを作る等し、強い日差しから守るようにします。庭に樺や榆などの大きな木があれば日陰ができ、涼しい風が生まれてくるのです
が・・・

大木は即席に作れませんが、棚

(図1)

●敷きワラ



やネットは簡単にできます。これにアサガオ、ユウガオ、ルコウソウなど蔓性植物をはわせて日陰を作ってはどうか。しかしこれも蔓が覆うまで少々時間がかかりますので早めに取りかかって

ください。

●雑草対策

照りつける太陽の下でもたくましく育つのが雑草たちです。

生長が旺盛なので大切な草花が雑草に覆われてしまわないうちに除草しなければなりません。夏は雑草との戦いです。

○マルチング

雑草で覆われないうちにワラやバーク堆肥等で地表を覆い、雑草発生を抑制する方法があります。これは見栄えは良くありませんが、地表が固くならず、乾燥防止にもなります。

○グランドカバー植物の利用

従来、グランドカバープランツ(地被植物)は、公園、庭園など



の下草やのり面、建築物の壁面などに利用されてきました。ここ数年、雑草防除、環境美化の面で再びその機能が注目されています。

グランドカバー植物には草本類(多年草が多い)、常緑・落葉低木、つる性植物、シバ類、ササ類、コケ類、シダ類などたくさん種類があります。この中から気候条件、土壌条件に適する植物、花や実を楽しみたいもの、草丈の低いもの・高いもの等を選んでいきます。

ここでは、花が観賞できる地被植物を挙げてみます。

- ・アジュガ
- ・ギボウシ
- ・シヤガ
- ・シバザクラ
- ・マツバギク
- ・ツルニチニチソウ・・・

しかし、グランドカバー植物が地表を覆うまでには、雑草の侵入が必ずありますので除草は欠かせません。

写真は水田畦畔にシバザクラを

植えて、環境美化、雑草抑制に役立っている例です。四月下旬に一斉に開花し、美しい風景が広がっています。

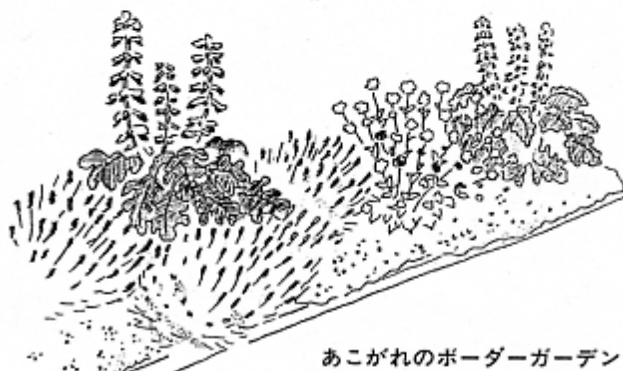
●イギリス風ガーデンに挑戦

日本でよく見られる花壇は、春はパンジー、夏はサルビア、マリ―ゴールドというように単調になっているように思えます。

イギリスの庭園のように多彩な宿根草を植え込んだボーダーガーデン



水田畦畔に咲くシバザクラ



あこがれのボーダーガーデン

デンはあこがれです。イギリスと日本では気候が随分と違いますが、日本版・イギリス風ガーデンに挑戦してはどうですか。

いろいろな宿根草を植え込むので全体的な開花は見られませんが、四季感は味わえます。また、毎年の植え替えが必要なく、二年目以降繁殖するので、植物同士によるマルチングや雑草防止にもなってきます。

今が見ごろ

旬の花

河江 正明

立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花、と美人を代表する花にたとえられる百合は、ユリ属の総称ですが、夏場に咲くことが多く、なかでもヤマユリが七月の季語となっています。

夏の微風にも揺れることから、百合の名が付いたともいわれ、サユリやヒメユリは、さもありなんとこのころでしょうか。

近頃は、お盆の定番のようなテッポウユリはまだしも、色とりどりのスカシユリやバイテクで生まれたオリエンタルリリーが年中出回っていて、季節感が失われそうな気もします。

さりとて、夏の日差しに立ち向かうようなオニユリも、捨てがたい百合の風情です。

西洋の花言葉では、純白の百合が「純潔、貞操」の証とされ、テ

百合



ッポウユリは復活祭にも欠かせぬ花となっていますが、近頃は教会での結婚式にも使われるようになって来たようです。

日本に十五種も原生し、多くの園芸種が親しまれる百合は、見てよし、切つてよし。グルメには百合根やむかごの楽しみまであるとすれば、結構、凝る値打ちがありそうです。

ところで、我が家の山草棚のヒメサユリは、何度挑戦しても一年限りしか咲きませんが、情熱の花クロユリは毎年咲いています。

山百合を捧げて泳ぎ来る子あり

富安風生